

【入選】「給食ってありがたいね」

桜井小学校 古居 姫奈

「お母さん、今日のご飯何？」

この言葉は、私の口ぐせだ。母は

「何にしようかな。」

と言い、続けて

「給食のメニューを考える人は大変だよね。」

と言った。私は確かにと思った。美味しければよいというわけでもないし、栄養だけあればよいというわけでもない。

ある日、クラスで

「今日の給食ってビビンバだよね。」

とみんな喜んでいた。いつも通り給食の時間には、ビビンバのおかわりの行列ができていた。家に帰り、母とビビンバの話をしていたら、

「給食ってありがたいね。」

と四月から高校生になった姉が言ってきた。姉は、毎朝母といっしょにお弁当を作っているのだ。私は給食が大好きで、思わず

「いいでしょ。」

と大声で言った。そして、給食のこん立て表を見せた。すると姉は、  
「いいな、ソフトめん。」

と言った。そう、姉は給食の中でも特にソフトめんが好きなのだ。でも私はやっぱり、ビビンバが好き。そんな話をしていたら、母が  
「じゃあ、今度ビビンバを作ろう。」

と言い私は

「ヤッター。」

と言いながら笑った。

そして今日はビビンバを作る日。スーパーで材料を買い、母といっしょに作った。味見をすると、何かがちがう。給食の味と何かがちがうのだ。

「材料もいっしょなのにどうしてかな。」

不思議に思い、母に聞いてみた。母は

「調味料がちがうのかな。」

と言った。確かに、給食のビビンバの作り方は分からない。でも、私は家のビビンバも給食のビビンバもどちらも大好きだ。

私はこの作文を書いたことによって、給食のありがたさを改めて感じる事ができた。給食は、六年間当たり前のように食べてきたけれど、この当たり前が幸せだと思った。残り小学校生活と中学校でも給食があるが、給食を作ってくれた人、食材に感謝して味わおうと思う。そして、これからは、給食だけではなく、家のご飯などにも感謝の気持ちをおすれずに生活していきたい。